



経営の散歩道

川中経営所長 川中清司

▼外人と一緒に座禅するように
なつてから、もう十年以上もた
つ。

その一人にサイモン・クロス
ビー君 (Simon Crosby) がい
る。ニュージーランド出身で鯖
江高校の英語講師だ。

外国人に東洋思想や禅がどれ
だけ理解できるのだろうか。興
味半分で、二・三回来るだけだ
らう、と思っていたが、「面白
い、面白い」と言つてずっと休
まずに参禅している。

禅の英訳本もよんでいて、サ
トリとかドーゲンなどと口にす
る。この夏は永平寺に行き、泊
まりこみの座禅生活を体験した。
すなおで明るく理解が早い。
近頃はすっかり座相も整つてき
て、国へ帰つたら座禅を普及す
るのだと張り切っている。
▼住職の久我孝則師から教わる
法話の、へたな通訳をつとめる
のが私の役目になっている。

△梅ハ寒苦ヲ経テ清香ヲ発ス
▽と教わると、

梅アプリコ、発スニメーク、

清香ニビューティフル・パーフ
ン、経るニスルー、寒苦ニバイ
ティング・ウィンター・コールド

The Eprico makes beautiful perfume.

through the biting winter cold

という具合にとぼしい単語を
つなぎ合わせて

「毎日の厳しい環境の中を、
精一杯つとめはげんでこそ、よ



り良い人生が開ける」と解説に
ブロークイングリッシュが汗
をかけば

「そう、そう、ワカッタ」
と大きくうなづいてくれる。そ
のときが本当にうれしい。

▼「だるま忌や

廓然として菜大根

さてこの禅句はどのように説
明したらよいか。まず自分が
どう解釈するかだ。

禅宗では始祖の達磨大師をし
のんで、陰曆の十月五日にだる
ま忌をいとなみ少林忌ともいう。
廓然、それは心が天空のよう
に晴れわたりわだかまりがなく
広々としていること。

しかしそれらと大根がどうつ
ながるのか。字句を英単語に置
きかえるだけの直訳では全然意
味をなさない。

▼ふさふさとした緑の菜を冠し
た、みずみずしく太く伸びやか
な大根は、たしかな季節の移り
かわりと自然の恵みを感じさせ
る。

今年の夏は記録破りの長い日

第七十七回

あっぱれ 菜大根

照りがつづいた。炎天に耐えて
育ってきたたくましさで感動し
「あっぱれ菜大根。ようこそ
までがんばったなあ」

思わず語りかけてしまふ。

▼おほかで気取どらずに、で
んとした裸のままの大根が、

「さあ、しっかり生きようよ」

と私たちに呼びかけている。

これを「無情説法」というの
か。もの言わぬ自然が人間に教

えてくれている。

▼杉木立、落ちついた庭、萬慶
寺の本堂。そこにじっと座る。

ときおり鳥のさえずりが聞こ
えてくる。静寂と自然のふとこ
ろに抱かれながら、今、自分が
ここに在るのだという確かな
「生」の実感がよみがえつてく
る。

△風やんで 花なお落つ

鳥啼いて 山また幽なり▽

しばらくは、こんな禅句がそ
のまま自分になる。

▼しかしとうてい私には、何も
考えずに無念無想で座ることな
どむずかしい。つぎつぎとつま
らぬ思いが湧いてくる。ただそ
んな自分をそのままに放りなげ
て座りつづける。

「なぜ座禅するのか」

と問われても

「なんでもない」

としか答えられない。

▼座禅を終えて帰りみちに人に
会うと

「すっきりした顔ですね」

と言われることがある。

顔の化粧はできても心の化粧
はできないというが、目的を求
めて座禅するのではなく、ひた
すら座る。それが心の垢を落と
して裸にしてくれるからかも知
れない。